

面倒臭い？

(財)日本青少年研究所の調査によると、日本の高校生は外国への関心が高いにもかかわらず、「留学したくない」と思っている生徒の割合が日米中韓の4か国中最高だったとのこと。

日本の若者に「内向き志向」が強くなっている表れともいえますが、外国に行ったことがある生徒は6割近くいますし、外国の文化や生活に興味のある生徒も7割もいるということは、外の世界に全く関心が無いという訳ではなさそうです。

ところが、外国で働いてみたいか聞くと、6割近くの生徒は外国では働きたくないと考えているようですし、可能なら留学してみたいかを聞くと、5割以上の生徒が留学したくないと答えています。同じ調査で、中国の生徒は4割、韓国に至っては2割という状況ですから、日本の生徒達の後ろ向き加減が気になります。

それでは、どうして留学したいと思わないのかについて聞くと、日本の生徒達の4割が「面倒だから」と答えています。私はこの回答について、外国に留学したがないという消極的な姿勢以前に、「面倒だから」としか答えられない語彙の不足、更には、自分の考えを積極的に表現しようとしないうことの方が心配になります。

自分は外国への留学はしたくない、あるいは出来ないというのであれば、例えば「語学に自身がない」、「経済的に難しい」、あるいは「帰国した後の就職が難しい」など、それぞれになにがしかの理由や背景があるはずだと思います。

勿論、留学するとなれば準備なども大変で、そういう意味では煩わしいことも多々あるとは思いますが、「面倒だから」という回答は、そういう煩わしいことは嫌だということだけではなさそうです。

外国に留学することは意義があるし、チャンスがあれば自分も留学したいけれど難しい問題があるということであれば、その問題を克服するにはどうしたら良いか等について議論も出来ます。しかし、「面倒だから」ということであれば議論にはなりませんし、議論すること自体が「面倒なこと」なので、あな

たとの議論は拒絶しますという意思表示のように感じられます。

反抗期の子どもが、親から何をいわれても「面倒臭い」と言って切り返すのは、親と話をすること自体を拒絶しているともいえるでしょう。親が、我が子から「面倒臭い」と切り返されてたじろいでしまうのは、子どもからの拒絶の意志を感じてしまうからではないでしょうか。

「面倒臭い」というのは、非常に煩わしい事、大変やっかいな事をいいます。

何を以て「煩わしい」あるは「やっかいだ」と感じるかは個人差が大きいと思いますが、考えてみれば世の中は、煩わしいこと、やっかいなことだらけで、人は、それぞれに折り合いを付けながら生活しているのが現実でしょう。

「面倒だから」の一言で片付けてしまおうとする今時の若者には、その一言では何事も忌避出来ないという事を知って欲しいと思います。「面倒だから」という言葉は、便利で、我が身を守る鎧のように感じているかも知れませんが、その言葉を使い続けている内に、最後は自分の居場所まで無くなってしまおうとすることを恐れるべきです。

外国に留学するもしないも、それぞれの選択ですが、高校生の皆さんには、何故自分はそういう選択をするのかについて、自分の言葉で語れる力を持って欲しいものだと思います。(塾頭 吉田 洋一)